

常任委員会合同派遣調査報告

令和5年5月22日、3常任委員会合同で、大湯ストーンサークル館において、3月25日より一般公開された「大湯環状列石 J O M O N 体感促進事業」のプログラムの一つである映像プログラムを視察しました。

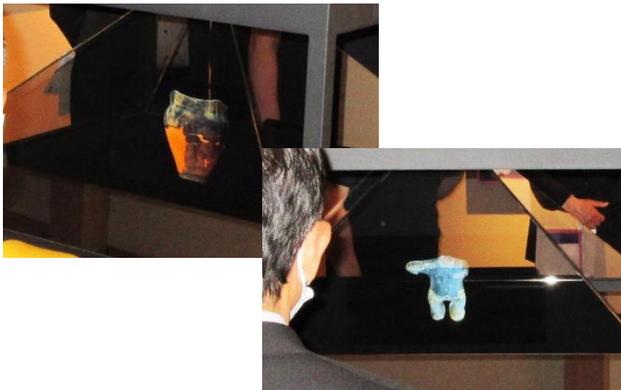
「大湯環状列石 J O M O N 体感促進事業」は、文化庁の「Living History（リビング・ヒストリー）促進事業」を活用した事業で、映像プログラムは、最新の拡張現実（AR）や3DCG等の技術を用いて、世界文化遺産「大湯環状列石」の概要を理解してもらうことに加え、縄文時代の暮らし（縄文人の世界観や食・まつり）を体感できる映像を制作し、視覚に訴えることで、遺跡の魅力をより深く、よりリアルに伝えられる環境を整え、来訪者の満足度向上を図り、国内外からの観光客誘客促進につなげたいとするものです。



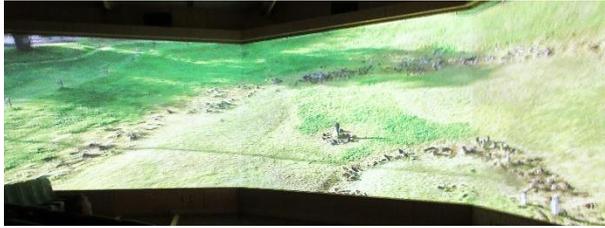
遺跡エリアを立体的イラストマップで確認できる「ディスプレイ」は、大湯ストーンサークル館のエントランスに設置され、画面をタッチすると各遺跡や周遊コースを案内します。



「ガイダンス映像」では大湯環状列石の概要や最新科学から見えてきた縄文時代の歴史などを大型ディスプレイで鑑賞することができ、5つのストーリーから学ぶことができます。



展示ホールでは、ホログラム映像化により27点の土器・土版の底面や内側などを全方位から鑑賞できます。



迫力ある4K映像と5.1chサラウンドで縄文時代を体感できる「縄文シネマ」を3連大型スクリーンで鑑賞することができます。

なお、それぞれの映像プログラムは全て多言語化対応しており、外国人観光客も楽しめる内容となっています。

そのほか、遺跡を巡りながら縄文時代の人々の暮らしなどをARで体験できる「遺跡周遊アプリ」も開発されています。

完成までに最も多くの時間を費やした映像プログラムは、専門家が集う検討委員会での協議内容や意見を基に制作されており、充実した内容的になっています。

本市では、ヘリテージ・ツーリズムの推進を重要施策として掲げていますが、これらのプログラムを最大限に活用しながら、大湯環状列石の魅力積極的に発信し、国内外からのさらなる観光客の誘客につながることを期待します。